

話の内容や書き手の意見などをとらえる「読むこと」の指導 —インフォメーション・トランスファーの活用と設問の工夫を通して—

長期研究員 横山 裕一

I 研究の趣旨

今回新しく加えられた学習指導要領の「読むこと」の指導事項は、書き手の伝えようとするに対して感想や意見を表現することができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることを目標としている。

これまでの自分の「読むこと」の指導は、一語一語の意味や一文一文の解釈など、どちらかという文章の内容全体よりも特定部分を理解させることに終始するくらいがあった。そのため、文章の概要や要点を把握するなど、文章全体から書き手の伝えようとするを正確に読み取らせることに課題を感じていた。

書き手の伝えようとするを正確に読み取り、さらに読み手として主体的に考えたり判断したりしながら読みを深めることで、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるようにする指導の在り方を探りたいと考え、本研究主題を設定した。

II 研究の概要

1 研究仮説

「読むこと」の指導において、以下の手だてを講じれば、生徒が、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるであろう。

【手だて1】 文章中の数多くの情報を、整理したりまとめたりするインフォメーション・トランスファーを活用して読み取りを行うことにより、文章全体の概要や要点などを把握し、書き手の伝えようとするを正確に読み取らせる。

【手だて2】 書き手の伝えようとするを、主体的に考えたり判断したりしながら読みを深めていくために、文章を読み取るための設問として、書かれている内容を正確に理解させる発問に加え、直接的には書かれていないが、文章全

体を通して書き手が伝えようとするを推測させるための推論発問(田中, 2011)を用いるなど、設問の仕方の工夫を図る。

2 研究の実際

研究対象 中学校第2学年 100名(3クラス)

(1) インフォメーション・トランスファーの活用

① 絵を用いて、文章の概要把握を促す

物語文の読み取りを行う際に、ストーリーの各場面の内容を表した絵と、絵の内容を簡潔に描写した英文を組み合わせる活動を行った。その上で、物語全体の概要を予測しながら、それぞれの場面を時間軸に沿って並べさせた。ストーリーを予測してから本文の概要を読み取らせたことで、予測した結果を知るために意欲的に本文に向かう姿が見られた。

② 表を用いて、文章の要点把握を促す

ある高校生の将来の悩みに対して、複数の人物からアドバイスがなされている文章の読解を行った。その高校生の立場に立って、悩みを解決するために最も有用であると思われる具体策を選ぶことを目的として文章を読み進めることで、説明文の要点を把握させることをねらった。そのために、異なった観点から述べられている様々なアドバイスに含まれる情報を、表を用いて整理しながら読み取らせた。その結果、それぞれのアドバイスの特徴を、まとめて比較、検討することが可能になった。

(2) 設問の工夫

New Horizon English Course 2 Let's Read 2 A Magic Box において、物語の読み取りを行う際、物語に書かれている内容を正確に理解させる発問に加え、直接的には書かれていないが、物語全体を通して書き手が伝えようとするを推測させるための推論発問を導入した。物語の各場面における登場人物の行動の意図などについて、推論させるために意図的・計画的に発問を行った。推論する機会を積

み重ねていくことにより、主体的に考えたり判断したりしながら徐々に読みを深められるようにした。以下は、実際に用いた推論発問の一部とそれに対する一人の生徒の答えである。

老婆が夫婦に魔法の箱を与えた場面での推論発問 (a)
Why does the old woman give a magic box to the husband and wife ?

生徒の答え 老婆は魔法の箱を渡すために、よい使い道をしてくれるやさしい人を探していたから。
Old woman: Excuse me, but could you please give me some water? I'm very thirsty.
Husband: **Here's some water. Please. Drink this.** 根拠1
Old woman: Oh, thank you very much. I'm hungry, too.
Wife: All right. **You can eat my lunch. Here you are.** 根拠2
中略

Old woman: I want to give you this box in return.
(The old woman gives them a small box.)
※ 部は、推論の根拠として生徒が引いたアンダーライン

夫婦が最後の願いは何にしたらよいか王様の所に行く場面での推論発問 (b)
Why do the husband and wife go to the king ?

生徒の答え 自分たちは、もうすばらしい夕食とワインを味わって満足したので、他の人にも幸せを分けてあげたいと思ったから。
Wife: I want to have a big dinner.
(Suddenly a big dinner comes out of the box.) 根拠1
中略

Husband: I want to have some good wine with it.
(They find a big bottle of wine on the table.) 根拠2
中略

Wife: Oh, no. Be careful. It's going to be our last wish.
Husband: You're right. Let's go to the king and ask him about it tomorrow.
※ 部は、推論の根拠として生徒が引いたアンダーライン

物語の主題を問う推論発問 (c)
What does the writer want to tell through this story ?

生徒の答え 自分の欲しい物をみんなにあげることで、国全体が幸せになるということ

上に示したように、この生徒は、直接的には書かれていない物語の各場面における登場人物の行動の意図について、テキストに書かれてある根拠を基にして考えたり判断したりしながら読みを深め、最終的に、この物語を通して書き手が伝えようとするところをとらえることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

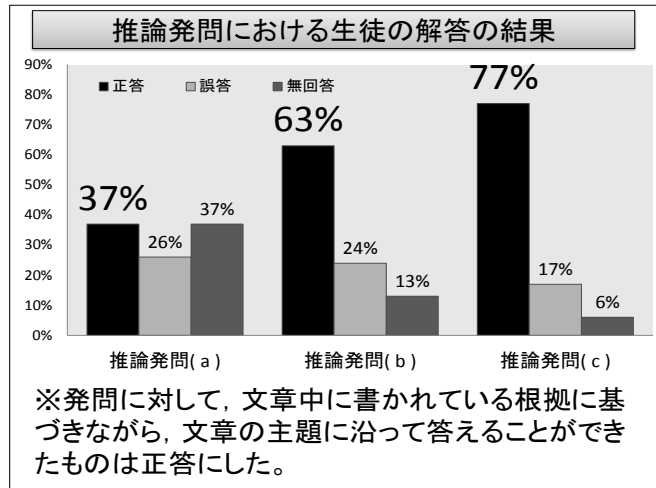
(1) インフォメーション・トランスファーの活用

6月と10月に、同じ英語の文章の読解問題を用いて、事前・事後テストを行った。文章の概要を把握する力を見る問題の平均正答率が23%から41%に上がり、文章の要点を把握する力を見る問題の平均正答率も、67%から84%に上昇した。同時期に行った

事前・事後アンケートの結果でも、「英語の文章のおおまかな内容を理解することができる」と答えた生徒が、事後アンケートでは、事前アンケートより40人増えて77人になった。このことから、絵などの視覚的な補助を利用したり、文章中の数多くの情報を、表を用いて整理したりするインフォメーション・トランスファーを用いての読解は、文章全体の概要や要点を把握し、書き手の伝えようとするところを正確に読み取るために有効であると言える。

(2) 設問の工夫

下のグラフは、左の図で示した三つの推論発問に対する生徒の解答の結果を表したものである。多くの生徒が、推論する機会を積み重ねることで徐々に読みを深め、最終的に物語の主題をとらえることができたことを示している。文章全体を通して書き手が伝えようとするところを、主体的に考えたり判断したりしながら読みを深めさせる、意図的・計画的な推論発問の活用が、話の内容や書き手の意見をとらえる上で重要な役割を果たしたと言える。



2 課題

学習指導要領改訂の趣旨に沿って、4技能を総合的に育成していく観点から、話の内容や書き手の意見など、「読むこと」を通してとらえることができた内容に対して、感想を述べたり賛否やその理由などを示したりする活動を行う必要性を感じる。読みを深めるための設問の仕方についてさらに研究を深めるとともに、推論する機会を積み重ねる中で形成した自分の考えを、英語で表現させるための効果的な指導の在り方についても探っていきたい。